

本日のテーマ「旅 part2」

実施日：2022年5月29日

1 「旅ドロップ」

江國香織／著 2019年 小学館 【914工】

著者の旅の思い出の本だが、どことなくつかしむ感じがする。行ったことがない場所もありますが、自分の思い出と重なる場所もあり、旅の思い出づりをしたくなってしまう。



2 「福岡発半日旅」

吉田友和／著 2019年 ワニブックス 【291.9】

表紙だけみると、福岡はよくなく、アジアのどこの国のようである。福岡のガイドブックには必載されている太宰府天満宮や太宰川が描かれているのが、地元目線ではなかなか良いと思いました。

3 「47 都道府県女ひとりで行ってみよう」

益田ミリ／著 2008年 幻冬舎 【291.0】

特に旅行先で使っていることもない著者がひとり47都道府県に行ってみるお話です。やっぱり1人1人モヤモヤすることもあるけれど、徐々に自分なりのペースで旅を楽しめるように。旅だからと気負わずいろんな場所に出かけてみる本です。



4 「はじめての御城印めぐり」

2020年 JTBパブリッシング 【291.0】

「御船印でめぐる全国の魅力な船旅」

2021年 地球の歩き方 【291.0】

「鉄印帳でめぐる全国の魅力な鉄道 40」

2021年 地球の歩き方 【291.0】

「全国「合戦印」徹底ガイド」

小和田哲男／監修 2021年 メイツユニバーサルコンテンツ 【291.0】

「全国「武将印」徹底ガイド」

小和田哲男／監修 2020年 メイツユニバーサルコンテンツ 【291.0】

お寺や神社でいただける「御朱印」ブームにあやからず(?) 全国で様々な「印」が生まれているようです。集めてみてはいかがでしょう?

5 「グアテマラの弟」

片桐はいり／著 2007年 幻冬舎 【772.1】

女優片桐はいりさんが中米グアテマラに住む弟を訪ねる旅エッセイ。どこにあるかもよく分からなかった国ですが、読み終わった後は、一緒に旅したような、なぜか親しみ深い国になっていました。

6 「旅する蝶」

新宮晋／著 2012年 文化学園文化出版局

【Eタ】

メキシコ ↔ 北米を渡る蝶の姿を描いた絵本。南下する蝶はメキシコに着くと数ヶ月生きるのに、北上する蝶は2〜4週間の寿命で、数世代かけて故郷に戻るという。



7 「ドナウの旅人 上・下」

宮本輝／著 2016年(初版1985年) 新潮社 【SN 三】

30年以上たっているので、歴史は大きく変化していますが、小説は古さを感じさせません。20代の頃、読みましたが、いつの間にかヒロインの歳はもちろん、彼女の母の歳も、和や違ひ越えていました。「ドナウ川も一度みるかたい」という夢も今に叶わず...

8 「ガンジス河でバタフライ」

たかのてるこ／著 2000年 幻冬舎 【292.0】

自筆の小説の著者たかのてるこさん。ですが、海外の方で言葉が通じなくても、大阪人のノリで笑いをとります。勢いがある行動力に勇気もらえる一冊です。

9 「フィンランドでかなえる 100 の夢」

Kukkameri／著 2020年 ダイヤモンド・ビッグ社 【293.8】

素敵な景色が満載で、わくわくと癒しをくれる本です。また、こんな風に楽しむ方法があるんだ! という発見も考えなくてはいけません。

